

111	パルボウイルス	Transfusion in press	3つの血液凝固因子製剤(第VIII因子インヒター-バイパス活性、第IX因子複合体および第VII因子)の製造工程においてSTIM-4蒸気加熱処理装置を用いた不活性化処理を行い、ヒトパルボウイルスB19(B19V)とマウス微小ウイルス(MMV)間で不活性化効果の比較を行った。その結果、血液凝固因子製剤の中間体の種類に関わらず、試験に用いたB19V(遺伝子型1型、2型)はいずれもMMVと比較して効果的に不活性化された。
112	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	2005年3月から2007年3月の間にオランダで約260万の血漿成分検体を対象として2種類のPCRアッセイを用いたパルボウイルスB19(B19V)のスクリーニング試験を実施した。その結果、232検体がB19V DNA値100万IU/ml以上であった。ヨーロッパ人ドナーにおいてはB19V遺伝子型2型及び3型の保有率は極めて低いと考えられた。
113	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	ヒト血漿中のパルボウイルスB19(B19V)抗原を検出するEIAを開発した。本アッセイを用いて無症候性ドナーから採取したウイルス血症性の献血検体を検査したところ、低pHの状態ではB19V検出が大幅に増加した。また、B19抗原の検出はB19 IgMまたはIgG抗体存在下で影響を受けなかった。B19V IgMアッセイと併用することにより、急性B19V感染の91%を検出した。B19V IgM検出法とB19V抗原EIAの併用はPCRに替わるB19V感染の有効な検出法となると思われる。
114	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 341-347	過去30~35年間に製造された第VIII因子製剤中にヒトパルボウイルスが存在するかを調べた。175ロットのうち28ロットがPARV4シーケンスを含み、その内2ロットにジェノタイプ1型及び2型の両方が存在した。最大ウイルス量は $10^5$ copies/mL以上であった。PARV4陽性の第VIII因子製剤の大部分は1970年代及び1980年代に製造されていた。B19Vは175ロット中70ロットで陽性であった。
115	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	パルボウイルスB19(B19V)の新規の遺伝子型が発見されていることから、種々の遺伝子型のB19V検出及び定量結果を統一する方法を見出す目的で国際ワーキンググループ会議が2007年3月に開催された。その会議の要旨である。会議では、B19V株の分類、種々の遺伝子型の有病率、分布、臨床的意義などが検討された。また、特性が十分に明らかになっている標準物質を用いたアッセイの標準化について合意が得られた。
116	ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästernorrland地方の流行性腎症患者の数は100,000人当たり313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの一因であろうと考えられる。
117	ハンタウイルス	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	ヨーロッパでの出血熱は主にPuumalaウイルス(PUUV)またはDobravaウイルス感染による。ドイツ南東部Lower Bavariaでハンタウイルス感染患者31名について、酵素免疫測定法、免疫蛍光法、免疫ブロット法による診断を行った。標準的検査による抗体のPUUV特異的タイピングができない症例が2、3あった。3名の患者の急性期血清から得たPUUV RNAをRT-PCRを用いて増幅したところ、同地域で捕獲したハタネズミから得たウイルス配列と非常に近縁であることが明らかとなった。
118	ハンタウイルス	ProMED-mail20080119.0249	台湾保健局は2008年1月11日、今年初めてのハンタウイルス出血熱症例を発表した。台湾の46歳のビジネスマンで、中国の内モンゴルへ頻りに旅行しており、先月内モンゴルで鼠にかかったラットを処分するときラットに接触していた。
119	ヒトポリオマウイルス感染	Science 2008; 319: 1096-1100	メルケル細胞癌(MCC)検体をdigital transcriptome subtraction法を用いて検査し、新種のポリオマウイルスを同定し、メルケル細胞ポリオマウイルス(MCVまたはMCPyV)と命名した。このウイルスはMCC腫瘍10検体中8例(80%)で検出されたが、対照組織検体では59例中5例(8%)、対照皮膚組織検体では25例中4例(16%)でしか検出されなかった。MCVがMCCの病原因子である可能性が示唆された。
120	ブドウ球菌感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1834-1839	2003年オランダで、Sma1パルスフィールドゲル電気泳動でタイピング不可能な新規のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(NT-MRSA)が出現した。ケースコントロール試験の結果、NT-MRSAのキャリアはブタまたはウシ飼育農家に多かった。またNT-MRSAは新規のクローン複合体ST398に属していた。2002年にはヒトにおけるNT-MRSAは0%であったが、2006年には同国の全MRSAの20%以上がNT-MRSAによるものであった。動物宿主由来のMRSAがヒトに感染したものと考えられる。

121	ブドウ球菌感染	HPA/Health Protection Report 2(25) 2008年6月20日	最近、英国HPSは2007年にヒトにおいて発生したいわゆるコミュニティMRSAのブタ株であるST398株感染症例3例を報告した。これらは英国における初めての症例であるが、全員治療に成功した。ここ数年、ヨーロッパ大陸の家畜のブタにおいて無症候性のST398株の定着の増加が認識されている。ブタ関連MRSA(ST398)のヒト症例を更に同定するため、HPAは臨床検査による監視の継続の必要性を改めて表明する。
122	ブドウ球菌感染	HPS Weekly Report 2008; 42(23): 203	MRSA分離株であるST398株は、ヒトに伝播し、感染を引き起こす可能性のあるブタ関連株であることが示唆されている。英国では今まで動物またはヒトからのST398株分離の報告はなかった。2007年にScottish MRSA Reference Laboratoryはヒトから分離され、MLSTによって同定された3例のST398株を受け取った。これらの分離株は最も普遍的なST398株と同一ではなかった。疫学的調査の結果、3例は同時期に入院しておらず、ブタや養豚業者との関連はなかったことが確認された。
123	ブルセラ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e131-136	急性ブルセラ症患者39名の血液検体中のBrucella DNAの存在をRT PCR法により調べた。その結果、治療終了時では87%、治療完了後6ヶ月では77%、治療後2年を過ぎても70%の患者で、無症候性であるにもかかわらず、Brucella DNAが検出された。適切な治療を行い、回復したように見えても、Brucella DNAは存続する。ブルセラ菌は除去不可能な持続性の病原体である。
124	ブルセラ症	ProMED-mail20071206.3936	中国保健省は2007年12月3日に、中国でのヒトにおけるブルセラ症の増加は継続しており、Heilongjiangにおける症例数が特に多いと述べた。保健省の統計によると中国のヒトにおけるブルセラ症の防止および管理は重大な状況にあり、ウシおよびヒツジ生産地域における発生は重大な懸念である。
125	ブルセラ症	ProMED-mail20080202.0427	米国農務省は2008年2月1日にTexas州はウシのブルセラ症フリー資格を獲得したと発表した。同州のウシ生産者は50年近く、ブルセラ症と闘ってきた。
126	ペスト	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459-1462	2003年6月から7月にアルジェリアOran地区においてペストの集団感染が発生した。同国では、この疾患は50年以上報告されていなかった。腺ペスト症例18名が特定され、Yersinia pestisが6名から分離された。初発患者を除き、全員が回復した。標的予防的薬療法、衛生、ベクターコントロールが、感染制御上重要な役割を果たした。疫学的、分子生物学的な知見から、当該期間中、現地の保菌動物の存在が強く示唆されたが、その起源については特定できなかった。
127	ペスト	ProMED-mail20071212.3998	中国保健省は2007年12月10日、2007年11月にGansu省が2例目のペスト症例を報告したと発表した。患者は死亡した。Gansu省では2007年9月に中国で初めてのペスト症例が報告された。
128	マラリア	Clin Infect Dis 2008; 46: 165-171	マレーシア住民におけるPlasmodium knowlesiマラリアの分布を調査し、P. knowlesi疑い死亡例4例について調べた。その結果、P. knowlesiによるヒト感染はマレーシアボルネオからマレーシア半島まで広く分布することが明らかとなった。4例の死亡例からはP. knowlesi DNAだけが検出された。P. knowlesiは、より軽症の四日熱マラリアと誤診断されることが多いので注意を要する。
129	マラリア	ProMED-mail20071026.3487	タイにおける約10年ぶりのマラリアの再興は公衆衛生上の大きな脅威であることが最近の調査で明らかとなった。タイ健康増進基金による最新情報によるとマラリアとコレラは南部および北東部における重大な問題になりつつある。マラリアの発生は特に最南端の国境に接する州で重大で、今年(2007年)になってから今までに3000人以上が感染した。
130	マラリア	ProMED-mail20080408.1287	公衆衛生の専門家によると、2008年3月1日から現在までにボツワナBobirwa地域で6名がマラリアで死亡し、それ以外に確定症例201名が治療中である。同地域では通常数例の報告しかなく、異常に高い症例数である。

131	マラリア	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 431	平成18年5-9月にパプアニューギニア、インドネシア、タイに滞在していた29歳女性が帰国2ヶ月後に39°Cの発熱と著明な血小板減少を呈し、血液塗抹標本鏡検で三日熱マラリア原虫と四日熱マラリア原虫が認められ、治療された。後日、血液塗抹標本から抽出したDNAをPCR検査したところ、三日熱マラリアとサルマラリアの重複感染と診断された。サルマラリア感染は国内では検索した範囲では報告がない。
132	リケッチア症	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1019-1023	ネコノミが媒介するRickettsia felis感染症のヒト症例は世界中で報告されている。症状は発疹熱やデング熱などに類似しており、実際よりも少なく推定されている可能性が高い。ヒトの健康を脅かす感染症として今後調査が必要である。
133	リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
134	リンパ性脈絡髄膜炎	boston.com 2008年5月13日	2008年5月12日の保健当局発表によると、ボストンの病院で検出が難しいウイルスに感染したドナーから腎臓を移植された70歳女性が死亡し、57歳男性が危篤である。ドナーと患者2名の検体をCDCが検査したところ、全員、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性であり、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にはエイズウイルス、肝炎ウイルスなどの検査は行ったが、LCMVの検査は行っていなかった。
135	リンパ性脈絡髄膜炎	ProMED-mail20080516.1635	米国ボストンで同一ドナーからの腎臓を移植後、70歳の女性が死亡し、57歳男性が重体となっていると保健当局は発表した。ドナーである49歳のホームレスの男性はリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)に感染していた。LCMVはアレナウイルス属の基準種であり、げっ歯類により伝播されることが多いが、移植前検査には通常は含まれない。臓器に対する需要が大きいため、レシピエントはホームレスの臓器を入手することがよくある。
136	レプトスピラ症	PLoS Negl Trop Dis 2008; 2: e213	ペルー-Iquitos地域のラットから新規のレプトスピラを同定し、“Leptospira licerasiae” serovar Varillalと名づけた。同地域の急性レプトスピラ症患者の30%で“Leptospira licerasiae” serovar Varillalに対するMAT抗体が高力価で検出されたが、ペルーの他の地域では7%であった。この新規のレプトスピラ種はアマゾンの生物学的多様性を反映しており、ペルーアマゾンにおけるレプトスピラ症の重要な原因と考えられる。
137	レプトスピラ症	Infect Genet Evol 2008, doi:10.1016	コスタリカにおいて、レプトスピラ症の入院患者から分離されたレプトスピラは、Javanica血清群型に分類される新しい血清型で、Arenalと命名された。同じ地区の重症患者から分離された株も同じ血清型であったことから、この株は、この地域に流行する新規の高病原性の血清型であると考えられた。
138	レンサ球菌感染	Clin Infect Dis 2008; 46: 659-667	ベトナムで成人の細菌性髄膜炎疑い患者450名について前向き研究を行った。S. suisは最も普遍的な病因で、151名(33.6%)の患者で検出され、この内50名がブタまたは豚肉に曝露していた。死亡率は151名中4名(2.6%)と低かったが、140名中93名(66.4%)で難聴が起こり、50歳より高齢者で重篤であった。また、92のS. suis株の内、91株がセロタイプ2であった。
139	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 155-157	2001年にS. suisセロタイプ16に感染し、死亡したベトナム人男性の症例報告である。患者はベトナム南部Long An Province出身の57歳男性でアルコール依存歴があった。入院時には嗜眠状態であったが、バイタルサインは安定していた。24時間後に急性呼吸促進症候群を呈し、死亡した。患者はブタを飼育しており、ブタの臓器を日常的に摂食していた。血液培養でS. suisが検出され、セロタイプ16であった。セロタイプ16がヒトから分離されたのは初めてのことである。
140	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 183-185	サンフランシスコ出身の60歳男性は、7ヶ月間のフィリピン滞在から戻った直後、2003年6月、発熱、発汗、頭痛、嘔気、食欲不振を発症した。男性は5日後に38.9°Cの発熱、項部強直、全身倦怠を呈し入院した。入院2日目に血液培養でグラム陽性連鎖球菌が検出され、分離菌はペニシリン感受性であった。入院5日目に左側難聴となり、7日目にStreptococcus suis血清型2型と同定された。患者はフィリピン滞在中に生の豚肉を摂食してS suis髄膜炎を発病したと思われる。

141	レンサ球菌感染	J Infect 2006; 52: 455-460	2000年5月～2002年12月にタイChiang Mai大学病院で成人におけるStreptococcus suis(S. suis)感染に関する後ろ向き研究を行った。41名の感染患者が同定され、内3名にブタまたはブタ肉への曝露歴、1名に生牛肉摂取歴があった。臨床症状は感染性心内膜炎、髄膜炎などで、死亡率は19.5%であった。分離菌は全てペニシリンに感受性があった。S. suis 感染はタイ北部では稀ではない。早期発見が重要である。
142	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	酪農業を営む50歳男性が、2007年4月初旬より、全身倦怠感、39度台の発熱、悪寒が出現し、腰背部痛が出現し徐々に激しくなったため4月10日に受診した。5月18日に入院し、血液培養から連鎖球菌が検出され、肺塞栓、脊椎炎を合併した感染性心内膜炎と診断された。ペニシリンとゲンタマイシン併用投与により軽快した。同菌はStreptococcus suis 2と同定され、牛の飼育から感染したと思われる。
143	感染	56th Annual Meeting of the American-Society-of-Tropical-Medicine-and-Hygiene 1044	ヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)の発生率は、1999年以来2倍となった。原因病原体のAnaplasma phagocytophilumによる血液の安全リスクを調査するため、間接免疫蛍光法を用いてコネチカット州及びマサチューセッツ州の血液ドナーのA. phagocytophilumに対するヒトIgG抗体を測定した。その結果、2001年から2006年に採取された15,828ドナー血清中432例(2.7%)が抗体陽性であった。比較的高い陽性率が持続していることから更なる調査が必要である。
144	感染	Doctor's Guide 2007年11月12日	ヒツジの分娩時に農夫が罹患する謎の皮膚疾患が英国Hampshireの農夫およびSouthamptonの医師チームによって発見され、British Journal of Dermatologyに発表される。この疾患は耳だけに熱感、痒み、水ぶくれなどが起こり、毎年ヒツジの分娩時期に発症し、lambing earsと名づけられた。生検の結果、多形性光発疹と類似していることが明らかとなった。農作業と関連する事が示唆された。
145	感染	HPA/Health Protection Report 2(13) 2008年3月28日	2007年にNBSIはイングランドのPrimary and Acute Care Trustsからの170000例以上の出産前検体を検査した。計819検体が感染マーカー陽性であった。429例(0.28%)がHBsAg陽性、165例(0.11%)が抗HIV陽性、225例(0.13%)が抗Treponema pallidum陽性であった。また1798例(2.5%)が麻疹に対する抗体が陰性であった。
146	感染	ProMED-mail20071124.3799	中国HankouのJiayuanの保育園の同じクラスの生徒約20例が原因不明の疾患を発症した。2007年11月19日から発症し、口腔内潰瘍、発疹および微熱の症状を呈した。
147	感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	カナダ血液サービスとHema-Quebecが主催した血漿分画製剤における病原体不活化(PI)に関するコンセンサス会議で得られた結論の考察と主な見解が報告されている。現在ヨーロッパで広く用いられているPIがカナダや米国で実現されようとしている。PIを推進することによって、現在の技術や供血者スクリーニング法では防ぐことができない輸血伝播感染症を減らすことができる。
148	感染	Transfusion 2008; 48: 304-313	血小板濃厚液におけるUVC照射の病原体不活化能を検討した。UVC照射は、血小板の品質に影響を及ぼさず、細菌(表皮ブドウ球菌、黄色ブドウ球菌および大腸菌)ならびに伝播性胃腸炎ウイルスなど広範なウイルス(HIVおよびシミアンウイルス40を除く)を不活化することができた。しかし、HIVのような血液感染性ウイルスに対応するには、UVC法をさらに最適化することが必要である。
149	感染	Transfusion 2008; 48: 697-705	欧州の3つの血液センターにおけるアモトサレンおよびUVAIによるフォトケミカル処理(PCT)過程のプロセスバリデーション試験を行った。フィブリノーゲンおよび第VIII因子はPCTにより平均26%減少したが、治療用血漿として十分なレベルを保持していた。他の凝固因子は対照FFPのレベルの81-97%であった。PCT処理済FFP中の凝固因子が治療用血漿に関する欧州規制および国内基準の範囲内に保持されることが示された。
150	感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 315-323	アモトサレンと紫外線A波で光化学処理した血小板(PCT-PLT)の輸血に関連する有害事象を調べるために能動的血液安全監視プログラムを実施した。患者1400名に7437件のPCT-PLTが輸血され、その内、68件が有害事象と関連付けられた。PCT-PLT輸血に関連した急性輸血反応は発現頻度が低く、ほとんどが軽度であった。

151	感染	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1), 2A-S01-02	化学的または光化学的遺伝子修飾に基づいた血液製剤中の病原体不活化(PI)は広範囲のスペクトルの予防的アプローチである。溶媒界面活性剤(SD)およびメチレンブルー法は欧州の多くの国で使われている。アモトサレン(Intercept)、リボフラビンを用いた新しい方法が導入されている。リボフラビン、UVおよび可視光線を用いる血小板(PC)、血漿および赤血球のためのPI法が開発中である。
152	ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒト-ヒト感染を特定できなかった。
153	ウイルス感染	CDC/Travelers Health 2008年6月13日	2008年1月8日、ブラジル保健局はブラジル在住の旅行者および外交官に黄熱病警報を発した。2008年6月11日現在、死亡25名を含む、45名の黄熱病確定症例が報告された。黄熱病危険地域への旅行者は10日前にワクチン接種を受けるよう警告している。また、更に2つの州が危険地域に指定された。
154	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 834-836	カナダにおいて、Saffoldウイルスに関連するカルジオウイルス分離株が呼吸器症状を有する3名の子供からの鼻咽頭吸引物から検出された。Can112051-06分離株のポリプロテイン配列は、Saffoldウイルスと91.2%のアミノ酸同一性を有した。しかし、ウイルス表面のEF及びCDのループは、かなり異なっていた。
155	ウイルス感染	J Virol 2007; 81: 12709-12714	末梢血幹細胞移植後に肺炎で死亡した患者由来の検体から未知のウイルスが分離された。無作為PCRに基づいたスクリーニング法により、この感染物質はトリパラミクソウイルス1(APMV-1)と同定された。肺組織中の脱落肺胞細胞にAPMV-1抗原が存在することが免疫組織化学的分析により確認された。遺伝子配列から病原性ハトAPMV-1株と最も近縁であることが示された。APMV-1感染によるヒト致死症例の初めての報告である。
156	ウイルス感染	Liver Transpl 2007; 13: 1703-1709	サイトメガロウイルス(CMV)ドナー陽性/レシピエント陰性(D+/R-)肝移植における抗ウイルス薬(ガンシクロビルまたはバルガンシクロビル)予防投与の効果を検討した。予防投与中にはCMV病は発症しなかったが、予防投与中止1、3、6、12および24ヶ月後に各々2%、25%、27%、27%および29%の患者で初発CMV病が観察された。女性および若年患者で遅発性初発CMV病のリスクが増加し、糖尿病患者ではリスクが有意に低下した。
157	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
158	ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。
159	ウイルス感染	ProMED-mail20080418.1387	ボリビア保健当局、CDCなどのチームにより、ボリビア農村部で感染により死亡した患者1例の血清検体から、未知のアレナウイルスが同定され、Chapareウイルスと名づけられた。この研究は4月18日付けPLoS Pathogensに発表された。ChapareウイルスはJunin、MachupoおよびGuanaritoウイルスと同様の出血症状を起こすが、遺伝学的には異なる。
160	ウイルス感染	ProMED-mail20080720.2201	オーストラリアBrisbaneの動物病院のスタッフが致死性のヘンドラウイルスに感染した。看護師1名と獣医1名が、感染したウマ数頭を治療後、感染した。前回のアウトブレイクは1994年で調教師1名とウマ14頭が死亡した。同ウイルスがヒト-ヒト感染するとのエビデンスはなく、拡大する危険性はない。

161	ウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1180-1187	米国テキサス南東部の健康な成人ドナー100名の血液中のヒトヘルペスウイルス(HHV)陽性率とウイルスDNA量をRT-PCRにより調べた。その結果、HSV-1、HSV-2、VZV及びHHV-8 DNAはどの検体からも検出されなかった。一方、EBVは72%、HHV-7は65%、HHV-6は30%、CMVは1%に検出された。また、1名の血液から $6.1 \times 10^7$ geq/mlを超えるHHV-6 Type Bが検出されたが、健康者における異常な高値は活動性感染や免疫不全とは関連が無いと思われる。
162	ウイルス感染	WHO Representative Office in China 2008年5月19日	2008年3月下旬、中国Anhui省Fuyang市で未就学児3名が重症の肺炎と急激な悪化により死亡し、4月中旬までに15名の小児が同様の疾患で死亡した。調査の結果、エンテロウイルス71による手足口病と確定された。同市では、3月1日から5月9日の間に、6,049例報告され、353例が重篤で、22例が死亡した(致死率0.4%)。患者数は、4月の初めに増加し始めて、4月28日にピークに達し、5月5日以後減少した。
163	ウイルス感染	共同通信 2008年2月7日	オーストラリアで臓器移植を受けた後に相次いで死亡した3人の患者から、未知のウイルスを新しい手法で発見したと、米コロンビア大などのチームが6日、米医学誌に発表した。チームは生物のゲノムを解読するための高性能配列解読機を駆使し、患者の遺伝子から未知の配列の遺伝子断片をふるい分け、これまで知られていないアレナウイルスの一種を発見した。
164	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080724.2241	米国フロリダ州のウマにおいて致死性の高い東部ウマ脳炎(EEE)ウイルス感染が発生している。2007年、2006年の例数は各々、18例、17例であったが、2008年7月初旬までのウマのEEE確定症例数は56例となった。ヒトでの感染は起こっていない。
165	狂犬病	ProMED-mail20071115.3708	2007年11月12日、インドAanapparaの100名近くの住民に対し、狂犬病のワクチンが接種された。子牛が狂犬病のイヌに咬まれたため、住民は、子牛の唾液からその母牛に狂犬病が感染した恐れがあると疑い、その牛乳を飲んで狂犬病に感染した可能性があるとの集団ヒステリーを起こしたためである。母牛への感染は確認されていない。また牛乳を介して狂犬病が感染することは極めて低いと考えられる。
166	狂犬病	ProMED-mail20080401.1199	乳牛2頭が狂犬病陽性であったのを受け、米国West Virginia州Hampshireのウシの群れが隔離された。狂犬病の兆候は示していないが、6名のヒトが予防措置的に狂犬病の治療を受けている。
167	結核	Bull World Health Organ 2007; 85: 586-592	2004年10月-2005年9月にタイ結核能動的サーベイランスネットワークで収集された結核症例は5841例(164/100000)で、うち新規症例は2310例(65/100000)であった。これは2003年の受動的サーベイランスに比べ総症例数で19%、新規症例数で13%増加した。タイにおけるWHOの新しい戦略は私的施設における症例発見を増加させ、結核患者に対するHIVサービスおよび多剤耐性結核の診断を改善した。
168	結核	CDC/MMWR 2008; 57(13): 333-336	米国オクラホマ州保健局は2007年に46歳のホームレス男性臓器ドナーの死亡から3週後に結核菌を検出した。このドナーの肝臓または腎臓はテキサス州の住民であるレシピエント3名に移植され、そのうち2名が播種性結核を発症し、1名は死亡した。ドナーおよびレシピエントの結核分離株の遺伝子型は同一で、臓器移植により伝播したと考えられた。移植伝搬性結核が疑われた場合には医療関係者は関連するOPO、組織バンクおよび保健当局に連絡するべきである。
169	結核	Curr HIV Res 2007; 5: 499-504	2000-2005年にインドNew Delhiで治療を受けたHIV垂直感染小児213名をスクリーニングし、培養で結核と確定した24名について調べた。結核と診断された年齢(中央値)は16ヶ月で、半分以上の小児が免疫不全であった。21名(87%)が肺結核で、肺以外の結核が10名(41%)で確定された。6ヶ月間の抗結核薬治療後の回復率は64%であった。3名が薬物抵抗性で、5名が死亡した。
170	結核	ProMED-mail20071111.3664	Canadian Food Inspection AgencyはBritish Columbiaの飼育場でウシ結核が発見されたとのPrince George Citizenの報告を受けて、AlbertaおよびBritish Columbia における約30件の飼育場の検疫を行った。

171	結核	ProMED-mail20071202.3884	Vanderhoofの農場にいた雄ウシにおいてウシ結核が発見された後(2007年8月に確認された)、カナダBritish ColumbiaおよびAlbertaの30を超える農場が検疫中である。今までのところ、当該牛に直接接触した221頭のウシが処分された。
172	結核	ProMED-mail20080123.0285	米国Minnesota Board of Animal Healthは本日(2008年1月22日)、Roseau郡の食用ウシの群れがウシ結核検査に対して陽性であったと発表した。新しく検出されたRoseauの群れは2005年と2006年の検査では陰性であったが、2007年11月の検査で1頭がウシ結核の疑いとなり、先週ウシ結核と確定された。
173	結核	ProMED-mail20080202.0429	米国California州Fresno郡においてウシの群れがウシ結核に罹患していると2008年2月1日にCalifornia農業当局が述べた。ウシ5頭が検査陽性であった。前回、Californiaでウシ結核が検出されたのは2003年である。
174	結核	ProMED-mail20080205.0472	Minnesota動物保健局は本日(2008年2月4日)、Roseauのcattle operationからのウシにおけるウシ結核検査陽性を発表した。Minnesotaにおいてウシ結核が検出されたウシの群れは10件となった。
175	細菌感染	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008 年6月1-5日	マサチューセッツの医療センターで品質管理のため使用された廃棄製剤、使用期限切れロット、アフレーシスの残り的人血清アルブミン製剤を入手し、クラミジアの有無を調べた。その結果、PCR及びウエスタンブロットにより、4社の20製剤全てにおいてクラミジアの存在が確認された。また、in vitro培養を行ったところ11検体(55%)でクラミジア生菌が生育した。
176	細菌感染	IASR 2008; 29: 194-195	肺炎患者の喀痰と患者が入浴した温泉水からLegionella rubrilucensを分離した。患者喀痰と温泉水から分離されたL. rubrilucensについてPFGEによるDNA切断パターンを調べたところ、同一パターンであった。レジオネラ症患者からの菌分離はL. pneumophilaが主であり、当該菌のヒトからの分離例は国内外で初めてである。
177	細菌感染	J Hosp Infect 2008; 69: 398-401	台湾の病院で2007年1月から発生したBurkholderia cepaciaの院内感染について原因を調査した。この病院では開封したマルチドースヘパリンバイアルを4°Cの冷蔵庫で保管し、空になるまで繰り返し使用していた。毎日調整される希釈ヘパリン溶液から同菌が検出され、感染源であることが明らかとなった。不適当な薬剤の使用方法は避けるべきである。
178	細菌感染	ProMED-mail20071231.4200	2007年12月29日に中国KaohsiungのLiang Jen病院からHualienのYuli sanatoriumへ移された患者9例の血液に高濃度のEntamoeba histolytica抗体が確認され、検査でこの9例のうち3例において感染が示された。Liang Jen病院の消毒および患者の検査が実施され、14例がアメーバ赤痢感染が疑われている。
179	細菌感染	ProMED-mail20080409.1305	香港保健センターは2008年で1例目のコレラ症例を確定した。Wong Tai Sin地区の26歳の女性である。2008年3月29日から4月2日フィリピンへ旅行し、下痢、腹痛、眩暈および嘔吐の症状を呈した。患者はコレラ菌Ogawa型陽性であった。
180	細菌感染	Transboundary and Emerging Diseases 2008; 55: 183-185	米国Kentucky大学家畜疾患診断センターで、9ヶ月齢で流産したサラブレッドの胎仔とその胎盤の剖検および組織学的検査を行った。その結果、胎盤炎、臍帯炎および胎児の致死的な気管支肺炎が確認された。原因となった病原体としてDermatophilus congolensisが特定された。本報告は全ての動物において初めて胎児流産とDermatophilus congolensis感染の関連を示したものである。

181	細菌感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 193-201	ルックバック調査でPropionibacterium acnes汚染が推定される血小板濃縮製剤(PC)の保存から輸血までを追跡したところ、輸血後の有害事象は見られなかった。In vitro試験でプロピオン酸菌属の臨床分離菌をPCに接種し、好氣的に22℃で10日間保存という条件下での生育を調べたところ、細菌の生育は緩慢か生育を認めなかった。プロピオン酸菌属はPC保存条件下では増殖しないため、検出されないか、輸血後に検出されると考えられた。
182	細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 099 2008年4月17-18日	平成17-19年度に国内医療機関より検査依頼のあったヒト刺咬マダニについて病原体検索を行った。その結果、52症例54個体中3例で寄生マダニよりボレリアDNAが検出された。Borrelia valaisiana近縁種による世界で初めてのライム病症例を見出した。また、新しいボレリア感染症 Southern tick-associated rash illnessが国内のキチマダニによって媒介される可能性を初めて示した。
183	細菌感染	第56回 日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 WS-3-3	血小板濃厚液の輸血後に、TRALI様の急性呼吸不全と髄膜炎を併発し、血小板残液からBacillus cereusが検出された症例の報告である。TRALI様の急性呼吸不全を呈した際は、輸血後感染症も視野に入れた対応が必要である。髄膜炎併発例の報告はこれまでに無いが、輸血後感染症治療では髄液移行性も考慮した抗生剤選択が求められる。培養検査だけでなく、遺伝子検査まで施行することが、診断及び同一菌株の証明に重要である。
184	細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 099	平成17-19年度に国内医療機関より検査依頼のあったヒト刺咬マダニについて病原体検索を行った。その結果、52症例54個体中3例で寄生マダニよりボレリアDNAが検出された。Borrelia valaisiana近縁種による世界で初めてのライム病症例を見出した。また、新しいボレリア感染症 Southern tick-associated rash illnessが国内のキチマダニによって媒介される可能性を初めて示した。
185	原虫感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1013-1018	リーシュマニア症は生物媒介性疾患で、南ヨーロッパに定着しており、毎年700例近く、トルコを含めると3950例のヒトでの感染が報告されている。無症候症例は臨床症例の30~100倍とみられ、また飼い犬の血清陽性率は25%と推定される。薬剤耐性Leishmania infantumがイヌを介して拡大するおそれもある。全ヨーロッパレベルでの研究が必要である。
186	旋毛虫症	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 40-44	ラオス北部のUdomxay地区病院における2005年6月から2006年5月の旋毛虫疑い症例138名について調査した。その結果、結婚式または葬式に出席した人の比率が高く、生または発酵ブタ肉料理を食べていたことが明らかとなった。ELISA分析の結果、これらの症例のTrichinella陽性率は67.6%(138名中90名)であった。同地区の屠殺場のブタ肉1検体からTrichinellaが検出され、T. spiralisと同定された。
187	クラミジア感染	Sex Transm Dis 2008; 35: 377-382	ウィーンで2005年11月から2006年11月に鼠径リンパ肉芽腫を有し、Chlamydia trachomatis DNA陽性の男性同性愛の患者24名から得られた検体について遺伝子的な解析を行った。24検体中15例のC. trachomatisがbiovar L2、7例がbiovar D、FまたはGであった。8検体においてompAの可変領域にL2bの変異型が認められた。また4検体においてL2配列の3箇所に変異が見られ、新規株として各々L2c、L2d、L2eと命名された。
188	炭疽	ABQ Tribune 2007年11月19日	炭疽陽性の実験用ウサギが飼育されていたNew Mexico大学の部屋では炭疽は検出されなかったと、州保健局は今朝、報告した。ウサギに接触した従業員2名に抗生物質が投与された。研究所の職員約20名にも予防のため投与する予定である。
189	炭疽	ProMED-mail20071227.4149	トーゴの農業畜産水産省は、同国北部で炭疽が発生し、6人が死亡したと発表した。2007年12月初めに北部の草原で家畜に炭疽が発生し、病気のウシの肉を食べて感染した。他の感染者は病院で治療中である。トーゴ政府は発生地域に医療チームを派遣し、ウシの予防接種等の対策を打ち出した。住民に、死亡のまたは病気のウシを食べないように警告している。
190	炭疽	ProMED-mail20071229.4168	オーストラリア1次産業局はUpper Hunterで炭疽により死亡したウシは12頭で、20頭近くが死亡したと考えられると述べた。疾病は5農場に拡大している。

191	炭疽	ProMED-mail20071231.4193	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter Valleyにおける炭疽のアウトブレイクにより、ウシ30頭以上およびウマ1頭が死亡した。状況は悪化しつつあり、2007年12月29-30日には更に3頭の死亡が報告されている。アウトブレイクは9農場に拡大している。
192	炭疽	ProMED-mail20080102.0015	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter で更にウシ3頭が死亡したが、これは既に隔離されている農場で発生した。現在、炭疽によりウシ35頭が死亡している。
193	炭疽	ProMED-mail20080103.0032	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter では検査陽性のウシが更に確認され、計9農場が隔離されている。2008年1月2日の当局発表によると、炭疽により36頭が死亡している。
194	炭疽	ProMED-mail20080105.0061	2007年12月中に、オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter Valley貯水池内のScone地区9農場で炭疽が確認された。隔離措置、死体焼却およびワクチン接種が実施された。同地区では症例発見のためのサーベイランスが強化されている。
195	炭疽	ProMED-mail20080116.0205	オーストラリアNew South WalesのRouchel地区では、炭疽による死亡のピークは2007年のクリスマス時期であったが、現在は徐々に減少している。最後の死亡例は2008年1月2日に確認された。炭疽により計50頭が死亡し、11農場が隔離されている。
196	炭疽	ProMED-mail20080122.0265	オーストラリアVictoriaのGoulburn Valleyの農場で雄牛1頭が炭疽のため死亡した。該当牛は2007年2月に炭疽のアウトブレイクが起こった農場出身であった。農場は隔離され、付近の農場のウシはワクチン接種された。
197	炭疽	ProMED-mail20080204.0457	2008年2月3日インド当局は、Orissa州Karaput地方で最近10日間の間に、炭疽感染疑いにより4名が死亡したと発表した。全員腐った肉を食べた後に死亡し、死後、炭疽後合併症を示した。予防措置として村内および周辺の全ての家畜にワクチン接種が行われた。
198	炭疽	ProMED-mail20080415.1360	ガーナGaru-Tempene地区およびその近郊、特にBiembogで炭疽が流行し、小児1名を含む3名が感染動物の死骸を摂食後に死亡した。同地域の全地区で炭疽に対する大規模なワクチン接種をするために獣医チームが派遣された。
199	炭疽	ProMED-mail20080423.1431	米国Minnesota州のBecker郡の農場でウシ2頭が炭疽で死亡した。同州における2008年で初めての炭疽事例である。
200	炭疽	ProMED-mail20080603.1775	2008年6月2日、インドOrissaでヒト2名と何十頭ものウシが炭疽により死亡し、20名以上のヒトが感染したと当局が発表した。2008年5月1日、Kandhasahiでウシ、ヤギなど動物6頭が炭疽により死亡し、その肉を摂食した村人16名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。2008年5月26日、Mantriputで12頭以上のウシが炭疽により死亡し、5名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。

201	炭疽	ProMED-mail20080608.1826	2008年6月4日、インドOrissaのSundargarh地区Kurtaの地域保健センターで炭疽症状の治療を受けていた35歳男性が死亡した。治療中の患者11名中4名が容態悪化のため病院へ搬送された。これらの患者は5月25日の地域の祭りでも牛肉を食べた後、発症した。
202	炭疽	Seachange Bulletin 2007年12月2日	New Mexico大学で研究に使用されていた実験用ウサギがどのようにして野生株の炭疽に曝露したかを疫学者と科学者のチームが調査中である。大学によると、ウサギから検出された炭疽はNew Mexicoの土壌中に自然に発生するもので、公衆衛生上の脅威ではないとのことである。検出された炭疽は動物からヒトに感染しうるため、ウサギの剖検を行った従業員2名および研究所の職員約20名に予防のため抗生物質が投与された。
203	梅毒	SignOnSanDiego.com 2008年3月26日	カリフォルニア州サンディエゴ郡の年間梅毒症例数は、最低となった2000年の28例から昨年(2007年)は340例まで急増した。州の他の大都市の郡と比べて非常に急激な増加である。増加率は州全体の2倍以上、全国の3倍以上になる。州から派遣された5名の専門家チームは、梅毒と診断された人々と連絡をとって、性的パートナーを探し、検査を受けるよう勧めている。
204	野兎病	Eurosurveillance 2007; 12(45): Article 1	スペイン北部のCastilla y Leon地方で2007年6月末に野兎病のアウトブレイクあった事が疫学的に確認された。10月22日には362症例が野兎病と確定された。患者は全員、抗生物質投与により回復した。患者のうち、23.5%がげっ歯類との接触があった事、16.6%が節足動物に刺された事、17.4%がイヌまたはネコのような動物に咬まれたこと、17.1%がザリガニを取り扱った事、4.4%が野兎と接触/皮剥ぎがあったことなどが判明した。
205	野兎病	JAPIC Daily Mail No.1668 2008年3月13日	福島県の50代男性が野兎病に感染。この男性は2008年1月中旬に、野ウサギを狩猟し、皮を剥ぐなどの作業をした。2月には千葉県での男性の感染が、国内で9年ぶりに判明した。
206	野兎病	第62回日本細菌学会東北支部総会 2008年8月21-22日	2008年5月に青森県の農場で衰弱死したトウホクノウサギを病理解剖したところ、脾臓・リンパ節の腫脹が顕著であったため、脾臓からの細菌分離を行い、同定を試みた。純培養菌の生化学的性状試験およびPCR法による特異遺伝子の検出より、野兎病菌( <i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>Holarctica</i> )と同定した。青森県では1990年以來初めての野兎病発生報告である。
207	野兎病	千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症発生情報 平成20年3月4日	2008年1月30日、千葉県で74歳男性が野ウサギ食べようと調理したところ、2月7日頃から発熱した。2月29日に医療機関から野兎病の発症例として地元保健所に報告された。患者は既に回復している。また、野ウサギを提供した知人および患者家族の健康に異常はない。国立感染症研究所によると、野兎病は1994年までに1372例の患者が報告されていたが、その後減少し、1999年の千葉県での1例以降報告されていない。
208	アナフィラキシーショック	FDA 2008年3月21日	B. Braun Medical Inc.は、納入業者Scientific Protein Labs. LLC(SPL)からHeparin Sodium USPの医薬品原料(API)の米国全域での回収について報告を受けた。この自主回収はB. Braunが製造し米国全域およびカナダに販売した23の最終医薬品製品が対象である。B. Braunが入手したHeparin Sodium, USP APIの1ロットにおいてヘパリン様物質の混入が明らかになった。
209	アナフィラキシーショック	Health Canada 2008年3月20日	カナダで販売されたheparin製品の検査で、B. Braun Medical Inc製造の製品において異物(過硫酸化コンドロイチン硫酸)が確認され、Health Canadaは同社と協力し、該当するカナダにおける製品の市場からの回収を行っている。米国およびオーストラリアのheparin製品でも過硫酸化コンドロイチン硫酸が確認されている。Health Canadaへの有害反応報告ではheparinに関連したアレルギー反応などの有害反応の増加は示されていない。
210	アナフィラキシーショック	Health Canada 2008年3月27日	B. Braun Medical Inc.の異物が混入したheparin製品の回収に関する最新情報。回収対象となっている製品およびロットなどが記載されている。米国において重度のアレルギー反応に関連した異物(過硫酸化コンドロイチン硫酸)が、カナダの一部のheparin製品で確認されたことに関して病院向けに通知した。

211	アナフィラキシーショック	LAKEMEDELVERKET 2008年4月29日	2008年4月23日、スウェーデンMPAは、スウェーデン市場においてOSCS混入が確認されたKlexaneバッチの回収を決定した。混入レベルは低く、回収は予防措置である。MPAは、米国におけるheparin製品に関する有害事象・回収などを受けて、スウェーデン市場向けにheparin製品を供給している全企業に対してOSCS混入について製品の検査を指令した。低分子量heparin製剤Klexaneの少数のバッチにおいて低レベルのOSCS混入が確認された。MPAは重度の有害事象の報告は受けていない。
212	アナフィラキシーショック	オーストラリア/TGA 2008年3月20日	2008年3月20日、豪TGAは、Heparin製品の使用に関するUrgent safety advisoryを発行した。最近、米FDAはheparin静脈内投与に関連したアナフィラキシー症例について報告を受けており、FDAによる検査により、これら有害反応に関連したheparinサンプルから汚染物質の存在が確認された。これらの報告を受けて、TGAはオーストラリア市場において入手可能な全銘柄のHeparinの検査を開始した。
213	アナフィラキシーショック	オーストラリア/TGA 2008年3月27日、4月7日	豪TGAは、オーストラリアで最近販売されたAstra Zeneca, Hospira, PfizerおよびBaxterのheparin sodium全製品の検査を完了した。Astra Zenecaのheparin溶液製品のみで汚染物質の混入が確認され、同社は該当バッチを回収した。低分子量heparin (LMH)の検査は実施中で、現在までにPfizer製造のLMHの検査が完了し、過硫酸化コンドロイチン硫酸が含まれていないことが判明し、Sanofi-Aventisの製品については現在検査中である。
214	アナフィラキシーショック	ドイツBfArM 2008年3月7日、4月15日、4月25日	ドイツBfArMは、2008年3月7日、重度のアレルギー反応に関連して、Rotexmedica製のHeparin-Rotexmedicaの回収について通知した。2008年4月15日、全ての注射用heparinについて、FDAが推奨する分析法による検査を指示した。2008年4月25日、「全ての注射用heparinについて、FDAが推奨する分析法による検査を指示」が更新され、分画および未分画heparinに関する情報などが更新され、掲載されている。
215	神経系障害	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
216	神経系障害	International Herald Tribune/Americas 2008年2月1日	MinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員で報告された奇妙な病気は理解間近であり、CDCの調査官はこの疾病を進行性炎症性神経障害と名づけた。ミネソタ当局はQuality Pork Processors IncのAustin工場の何千人もの前従業員を調査中である。調査官は、空中に噴霧したブタの脳組織を吸い込んだことにより病気となったかを明らかにしようとしている。
217	神経系障害	Medscape/Medical News 2008年1月28日	2つのブタ処理施設の従業員に神経学的症状が報告されたのを受け、米国CDCは全ての神経科医に対して、同様の症例の報告を求める緊急速報を送付した。CDCが1月17日にアメリカ神経学会に送付した速報は、2006年11月から2007年11月にMinnesotaブタ処理施設の従業員12名が炎症性神経障害を発症した件について報告している。2008年1月中旬にはIndianaのブタ処理施設で同様の症例が報告された。
218	神経系障害	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオースティンのブタ処理施設Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。
219	神経系障害	ProMED-mail20080129.0366	2006年11月から2007年11月にMinnesotaの豚肉加工場作業員12名が炎症性神経疾患を発症し、2008年1月中旬にIndianaの豚肉加工場従業員も同様の症状を発症した。全員、ブタの頭から脳を吹き飛ばすために使用する強力な空気圧縮装置の近くに配置されていた。彼らは手足の疲労感、麻痺および疼きといった炎症性神経症状の顕著な特徴を示した。ブタの中樞神経系が感染媒体である可能性がある。
220	神経系障害	ProMED-mail20080201.0405	2006年11月から2007年11月にMinnesotaの豚肉加工場作業員12名が炎症性神経疾患を発症し、Indianaの豚肉加工場従業員2名も同様の症状を発症した。この疾患は進行性炎症性神経障害と名づけられた。ケースコントロール試験の結果、ブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程と発症との関連性が強く示唆された。原因として、ブタの脳組織が自己免疫性末梢ニューロパチーを引き起こしたとの仮説があるが、詳細を調査中である。

221	神経系障害	Star Tribune 2008年3月6日	米国Nebraskaの精肉業者はMinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員を襲ったのと同じ神経学的症状であった。同州では初めての症例である。Nebraskaの精肉業者もブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程のプラントで働いていたとNebraska保健局は報告した。本症例で合計14名の従業員が同疾患患者となった。
222	神経系障害	Washington post com 2008年2月4日	ミネソタ州Quality Pork Processors社の従業員12名に神経症状が発生している件で、調査を拡大して行ったところ、インディアナ州の工場の精肉業者らが手足の倦怠感、しびれ、疼痛などを訴えている事が判明した。圧縮空気システムによって除去され、空中に飛散したブタの脳組織を吸入することが、この新しい疾患の原因かもしれない。